

89. 4. 26

ZEN

全道展機関紙

No. 19

全道展機関紙“ZEN” 第19号 平成元年4月22日発行

発行所 全道美術協会 事務局

〒005 札幌市南区川沿1条6丁目6-24

伏木田光夫方 011-572-1260

印刷 中西印刷株式会社 011-781-7501

編集委員 横田 恵子 手島圭三郎

44回全道展作品公募

■搬入 / 6月21日(水)・22日(木) 札幌市民ギャラリー
 ■会期 / 7月6日(木)〜16日(日) 札幌市民ギャラリー
 ■主催 / 全道美術協会・北海道新聞社

●出品を希望する方は返信用切手62円を添え、応募目録用紙を〒060-191 札幌市中央区大通西三丁目北海道新聞社事業局文化事業部全道展係に請求下さい。作年の応募者には送付します。また有名画材店頭にも置いてあります。

■巡回展開催地 美唄・網走・中標津・伊達・帯広・根室・釧路・旭川・鶴川・函館

午前10時〜午後6時

全道展は妙な会だ。皆な内気になってしまふらしい。僕も勇ましいことを云って、解散してしまえとか、あいつの作品の前に行くとマントをかぶるよ、などと悪態をつくのだが、溜め息が出るほど全道展が好きだ。

先輩達が偉らかったのか、四十四年間、全道展にはボスと云うものが一人も出なかった。そんなひまがないくらい先輩はそれぞれが作家であった。これはステキなことだった。だから新事務局長になった僕は、こゝで少

が全道展の活力になるだろう。ある切なさを持つて再び全道展と遭遇するためには全道展があつて自分が在るのでなくて、自分が在つて全道展があると云う野性味のある原点からの出発が重要である。

さて、このZENを読まれる一般出品者よ、審査する会員が作家として、ますます個の原点に帰ろうとしている会です。全道展風とか、こゝやつて描くと入選するだろう、などという概念を持たないでほしい。持っている人は



事務局長

伏木田 光夫

第44回全道展に向けて偶感

し悪態をつきます。全道展の会員よ、新しい帆を張ろう、そして仕事だ。一緒に右ならいしてワッショイ、ショイなんて馬鹿を云うことなかれ。こんなことを書くのは全道展を四十四回となると、人間が集団で行為する時、必然的に持ち出す保守性から逃れることが出来ないからだ。これを切りぬけるためには作家一人、一人が深く個であることから出発しなくてはならない。

才能がないか頭が悪いの、これは仕方ありません。案外、才能のない頭の悪い会員といえるかも知れませんが、そういう人はそういう人で入選して赤飯でもたいて下さい。しかし作家集団としての全道展は、厳しく自分自身に立ち向つて戦っている作家の集りでありたいと願望します。花に例えれば、ひまわりの花ばかりでは困ります。かすみ草もタンポポも又薔薇の花も又よしです。それぞれがそれぞれの花を咲かせてほしいものです。

三十号くらいで、一見弱々しいが良く観ると深く美しい作品など、心ある会員が、どれほど待ち望んでいるかわかりません。公募展という奴は腕力にもの云わせてというところもあつて、腕力に自信がある人は腕力をつき進んで来て下さい。野心家は野心家のように、つましきはつましいように、細密描写が現代の最前線だと思ひこんでいる人は、なめるように、全道展には、実は無節操なほどパターンなんてないのです。あるのは、ただいかに一人一人の内面の花が光芒をはなつかです。

今日のように、一つの大きい美学が渦になつて作家を巻きこまない時代というのは辛いものです。一人一人が孤独に、大いなる深きものに立ち向うことは、タジタジの時代です。なにか格好のよい流れが「前衛」などと呼ばれて登場して、作家も評論家も夢中になる蜜月も悪くありませんからね。

しかしせいぜい云われても世紀末芸術などと云われても心は燃えあがりません。フンドシとパンティを締め直して、自己の原点から出発するしかありません。自然と人間は、まだ充分に野性的ですらあり、戦うにも、逃げるにも命がけでなくちゃ、芸術、面白くありません。頑張りましょうや。

私は今

私は今

私は今

私は今

油 絵
川口 浩

私自身の絵を

私なりに

昨年の全道展で不相应な賞をいただき、良い意味で制作の励みに出来得るだろうと考えていましたが、ここ数ヶ月手の動かない日々が続いています。どうも制作する以前の問題が山積していて、キャンパスに向う段階までもっていけないの自分自身情なく思っております。

物語的な絵は嫌いでした。さもあらん題名やモチーフの選択もとても嫌だったんですが、ふと気が付いてみると私自身の作品が正にそれになっているようで。それは前段階での練り方の不足であり、とりもおさず私の力量不足であることなのだと思います。十分理解しているのですが。

自分自身を深く凝視し、私自身の絵を私なりに描いてゆくことだけを考えていこうと今さらながら当り前のことを思う今日このごろです。

(43回展協会賞受賞)



茫漠としたものが沢山頭の中にあるのですが、それを矩形の画面に表現するに至る必然性とその方法がギクシャクしてパラパラであることが最近特に気になってしまっています。作品になる前に作品にしまっているような気がするのです。ですから内容が形に負けてしまっているのです。その様なこと等々考えていても、今回の展覧会も見切り発車しなければいけない時期に来てしまいました。画面に向っている

中で解決していかなければいけないことは重々承知しています。少々辛い日々を重ねそうです。

全道展の会場に居ると少々疲れます。それは全道展のもつ独特の熱気であり、エネルギーのせいなのかも知れません。飾られている、ほとんどの作品が声高な主義、主張に溢れていて気の弱い私などは息苦しくなってくるのです。それはそれで良いことなのかどうか未熟な私には判断しかねるのですが、自分にとっては必ずしも居心地のよい空間ではないようです。

広島から北海道に移り住んで二度目の冬が過ぎました。見るものすべてが新鮮で、感動的だった一年目。そして、北海道の厳しさも少しは知った二年目。

人達の愛を一杯にうけて、伸びやかに育っています。この地には、人間には抗しきれない雄大で、しかし厳しい自然がある分、人間、謙虚で、大らかになれるかも知れないと思うのです。人の心の大らかな愛によって支えられている事、それが「愛ちゃん」の存在によって、私達にもたらされた事を、有難く思うのです。

ゼロからの出発という、ある潔きよさに、何か今まで見えなかった世界が、見えるのではないかという期待もあったのです。自分を、もう一度ゼロから問い直したいという想い。小手先ではない、「本当のもの」を見つけるには、北海道の豊かな自然が力をかしてくれる様な氣もしたのです。

昨年、全道展で、思いもかけず受賞しました事は、この地で根を下していこうとしている私にとっては、非常に幸運なことでした。色々な方との、新しい出会いがありました。ただ、今の私は、いまだ制作を始めることのできない状況の中で、今日に到っています。

とはいえ、ゼロからの出発、やはり大変な事ではありました。自分の小ささも識り、人間、いかに他者によって生かされているのかという事も、痛感しました。自分を識る旅の、始まりでもあった様です。

それは、精神的にかなりつらい事でもあるのですが、今はしばし、想いを深く、時を待とうと、思っているのです。

この地で生れた三番目の子が、ダウン症と解った時、今まで、健康で生れてくる事が、当然の様に思っていた自分のおこりに気づきました。しかし、一見不幸の様に見える事が、実は幸いなることであるという事も、これ程、実感したこともありませんでした。

今はまだ、身動きままならない状況の中からは、それでも少しづつ、何かを探り出していきたいと思っています。少しづつ、一歩づつ。

「愛」という名前の如く、家族・友人・隣

(43回展協会賞受賞)

版 画
石井 千晶

ゼロからの問い直し

北海道の新天地で

44回展にむけて

44回展にむけて

44回展にむけて

44回展にむけて

夢候よ

絵画(三笠) 林 敬司

一月関西を歩く。永い事いつか逢えると言っていた鴨居玲の「夢候よ」に偶然出喰し、膝が折れる。カレラアペル、オットーディックス、現代抽象国内外の巨匠達、エシバ大賞展にも足をのびず。唸る。熱くなる。「感化されやすいんだから外に出ないで閉じ込めたら。」云われて低く唸って冷める。さて又もや全道展。毎年この時期、煙草の量が多くなる。

嗚呼、今宵も夢候よ。

遊び心

絵画(東京) 菅野 充造

44回展にむけて特に意識して描こうと思つていませんが、日頃私の周辺で感じているものを「遊び心」を通して制作を進めております。これは特定のテーマにとらわれずに少し幅を広げて表現しようと思つたようになりまして。むづかしいかも知れませんが、どこまで私らしさが出せるのが、課題です。一点しか出品できないのが残念ですけれど。

自戒

絵画(音更町) 岡沼 秀雄

昨年、新会員に推挙していただきました。ほんの少しだけ絵が動いて(変つて)きたように自覚した時でしたから、認めていただけてうれしくもあり、早すぎたのではなかったらうかと不安もあります。初出品以来ここまでの二十年間を休まず続けられたのはまわりの人達のおかげでした。今、意欲だけが空転して終らぬようにと自戒しながら描き続けているところです。

再生産も再現の一種

版画(札幌) 干場 良光

粘土遊び、おだんごを一口つくる。またつくる。またつくる。なんだかしらないけれどくり返してつくる。人物や風景を具象的にかくことを再現といったものとするのですが、この頃は、再生産も再現の一種と考えることができるのではないかなと考へたりしています。今回は作品を何枚かつなげたものを出品する予定です。

待ち遠しい春

工芸(函館) 庄司 光江

嗚呼、常夏の国に住みたい……
冬の寒さが、敏感に第六感に堪える、近年の生活から、逃げだせたらどん／＼と染物をしたいとおもう心境、春が待ち遠しいですね。
部屋一杯に、下絵の紙が散乱していますが追われる如く、月、日が過ぎて行きます。しかし、健康第一に、染めに励んでいかなければとおもいますが、自分の納得できる染色をしたいとおもっております。

故郷の橋

絵画(苫小牧) 佐藤フサ子

瀬戸大橋を渡つてみた。瀬戸内の島は、大きく削られ形を失い、大部分を占めた支柱はいやに大きく、民家は橋の下で息をひそめており気の毒であった。

故郷に山間に深く沈んだつり橋があり、又沙流川には少し前まで渡舟場があった。仲間が集まり乗ったり、渡つたりした。故郷の橋の方がいいなと思つた。今この気持ちで制作すると優しくて、おほらかな絵が描けそう。

生きもののたちの叫び

絵画(森町) 市川 洋一

今年はどう描くか走り過ぎないように自分を締めながら目標に向って制作中です。休息中に無造作にいろ紙を折り曲げたり握つたり捨てた紙は春陽を受けてグラデーションの像とて昨年の絵はモノトーンに近く空き缶や捨てた紙を改め、今年の全道展はもっと大胆に構成多様に生きもののたちの叫びを詩いたい。

オマジナイ

絵画(札幌) 八木 伸子

はじめての冬の個展が終り、今年は夏中絵が描けるのがうれしいです。春陽会女流展の出品作のどれかを全道展に出すことにしていますが、うまく行く様に毎日オマジナイをしております。

地獄

絵画(札幌) 川本ヤスヒロ

「地獄」をテーマにして制作しています。地獄の沼を小舟で男と女が渡っている場面です。ドラクロアがジェリコーの「メデューサ号の筏」に感動し、一八二四年のサロンに「ダントの小舟」を発表しました。人間の不安がよくでた絵です。ほんとうは、生命力がテーマですが、今は、生に対する不安を描こうとおもっています。不安を表現することによって生命力と結びつくのではないかと考えています。

本当の自分

絵画(札幌) 砂田 陽子

何ものにもとらわれないエレガントな精神で描きたいと思う。本当の自分に会いたいと思っています。

物を作る事の難かしさ

工芸(函館) 三浦千代志

春を告げるふきのとうが芽を出し、福寿草が黄色い花をつけ、工房の周囲の風景も少しずつ変わって行く様です。物が動き出す兆しを感じる今、本格的に仕事もスタートと言った感じがします。毎回出品するたびに物を作る事の難かしさを痛感します。見えてくる事と同時に増々奥深くなる事で悩んでしまう事の連続、今作品を作ると言う基本的な姿勢を問い直す中で制作する事への情熱と想いを大切に制作に励んで行きたいと思っています。

風を描く

絵画(恵庭) 田中ヨミス

窓の外の「えぞ赤松」の樹に、カラスが二羽いる。ひたすら強風の中で耐えている。風に逆らつて、枝につかまっているのであるが、スケッチの間中ずう／＼といてくれた。私は、風を描くことができた。
窓をあけて、風を部屋に入れた。
序の舞(能)のF50は、かすかにゆれる。F100のほうは、まだキャンパスのままである。44回展にむけて、頭の中は風である。

漁

絵画(登別) 諏訪 英雄

三年前から漁港に主題を求めて製作していますので、今年もその仕事を継続していきます。子供の頃、離島の漁村に育つた関係からか、老いかけてきた最近では特に、「漁」にかかわる事柄に心を引かれます。自然界や人間社会の大きな圧力に抗し乍ら生き続ける漁村の人々の姿を描きたいと思っています。

44回展にむけて

44回展にむけて

44回展にむけて

雪山への郷愁

版画(苦小牧) 浅野 武彦

雪のあたたかみ、かがやき、ひろさの表現に苦労している所です。白一色にかがやく雪原、そのかなたに屹立する銀嶺に對峙した時、ふだん室内の仕事に追われているわたくしには何とも云えない開放感と同時に幼いころからの郷愁に似たものが湧き上り、制作に対する情熱が俄然かき立てられます。この感はずっとともにます。つるの様で、目下、苦小牧から眺められる雪の連山の制作中です。

パリでの体験をふまえて

絵画(小樽) 山下 脩馬

昨年、十一月下旬、パリに三日間滞在した。ルーブル美術館は職員組合の争議で閉館、そのセーヌ川対岸のオルセー美術館に二度足を運んだ。印象派が中心でなじみの作品が多かった。クールベの壁一面の大作には圧倒された。特別展としてセザンヌの初期作品展があり、女性の学芸員が熱心に解説していた。コンコルド広場のオレンジエリー美術館では、モネの睡蓮の大作に出会うことが出来た。

円形のキャンパスに描かれた睡蓮が並ぶその真中に立つて涙がこぼれる思い。

ポンピドゥーセンターでは現代美術の息吹きに触れた。マチス、レジェ、デュビッフエの何千号かの大作に圧倒される。

若い画家の卵と引率の先生が作品の前で熱心に議論している光景はほほえましかった。

このような経験をふまえて、今、自分の方向を再検討している所です。

美術館めぐり

版画(札幌) 木の瀬博美

三月、東京でのサム・フランシス展、ウィリアム・モリス展、静岡まで足をのばし芦沢鑑介館などへ出かけました。一昨年のバーン・ジョーンズ展、カンディンスキー展から久しぶりの美術館めぐりでしたが、どれも期待以上の心あわれまれる思いでした。又、ウィリアム・モリスの仲間達を追いかけ、いつの日か再びロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館を訪れたいと思っています。この感激を自分の作品に生かせればいいのですが……。

ゆっくり走ろう

絵画(札幌) 清田 操

毎年今年こそは慌てない様に早くから描き始めようと思つて居りましたのに……やっぱり！ 昨年の秋の個展の疲れもあり体調も思わしく無く、その他諸々の難用について、と云うのは言い訳なのです。

記録破りの暖冬にだらりとなった自分にムチ打って、始めなければなりません。頑張つて居られる皆様、増々勉強を、私の様なゆっくり組の皆様、御一緒に手をつなぎ走りましょう。

メゾチント

版画(川崎) 大高 操

最近は何故かメゾチントにのめりこんでいる。完成した作品を前に一人祝盃をあげつつ身ぶるいするくらいの幸をあげたいと思ひながら。

計報

絵画(函館) 石原 佑一

作品だけが語りかけてくれる。そんな仲間は以外と多い。面識もなくそれでいて、東京の同公募展への出品となるとライバル意識も強くなる。そんな彼女の計報を聞いて愕然とした。今は彼女の冥福を祈るだけである。いつになく、はつきりしないモヤモヤしたものである。自分が納得すればそれで良いのではないか。今の制作意欲を大切に頑張りたいと思つている。

愛の集団

絵画(札幌) 夏山亜貴王

昨年度のNo.18「ZEN」の私共の発言について、批判があるなら、自分で発言したことは、自分のコトバとして責任があると思つて、解答しなくてはと、思いました。然し、一年を経過してみても、それは不必要と考へを改めはじめています。

全く角度を替えて、私の好きなサルトルの言葉に、「自己の観点からは、他人の観点や他者の行為を非難することは出来ない」という言葉です。もしも自己主張が強すぎるならば、個人的意味ばかりでなく、人間の社会的組織の上にも反映し、個我の衝突になつてはいけなかつて、反省するからです。会の組織だった事について、「全道展は決して、政治ではない、個、個、個としてのぶつかり合いであつて、本当の意味での『作家集団』、しかも最も強い『会』に対する『愛の集団』です」と、過日Y・Kさんと共に呑んだ時、T・T先生が声を大きくして語った言葉が、今尚、耳に残っている。

第44回 全道展巡回展日程

7月19日(水)~24日(月)	美 唄 展	美唄市民会館
7月26日(水)~31日(月)	網 走 展	網走市立美術館
8月2日(水)~7日(月)	中標津展	中標津町公民館
8月9日(水)~13日(日)	伊 達 展	伊達市体育館
8月18日(金)~22日(火)	帯 広 展	帯 広 市 民 館
8月24日(水)~29日(火)	根 室 展	根室市公民館
8月31日(水)~9月5日(火)	釧 路 展	釧路市公民館
9月12日(水)~17日(日)	旭 川 展	旭川市文化会館
9月21日(水)~25日(月)	鶴 川 展	鶴川町社会福祉センター
9月28日(水)~10月3日(火)	函 館 展	丸井今井・函館

第31回学生美術全道展

搬入/10月3日(火) 札幌市民ギャラリー
午前10時~午後5時
会期/10月7日(土)~11日(水)
午前10時~午後6時
会場/札幌市民ギャラリー

搬入は、札幌市民ギャラリーです。応募用紙は有名画材店又は〒060-91 札幌市中央区大通西3丁目北海道新聞社事業局文化事業部全道展係へ返信用切手62円を添えて請求下さい。

追悼



故 武田 忠子

武田忠子さんを悼む

原 義行

第四十三回全道展に百三十号の大作「甦える」を発表したその月の二十六日、武田さんは疾風のようにこの世を去られた。実に惜しい人を見失った。以下簡単ながら足跡を尋ねてみよう。

御両親と教職にあり江別で奉職中昭和四年十二月七人兄弟の四女として誕生された。成人して札幌師範女子部の第五回生として卒業、一時は岩見沢で勤め後札幌にいられた。昭和四十二年北光小学校で私は、はからずも職場を同じくした。

その頃から油絵に傾倒し、六年後には早くも「サーカス」百号で全道展に入選しデビューするまでになった。そして第三十五回展で同展で全道展奨励賞受賞、三十六回展では油絵部門で唯一人佳作賞を受け、三十八回展では同会の会友に推薦された。会員に推挙されるのも遠くはなかったのである。

こうした全道展での活躍と共に五十一年から難関といわれる東京上野の行動展にも入選をし、その後連続入選を続け会の注目を集めるまでになった。この会での会友もまた近かった。眼をみはる精進ぶりである。公募展の会友とか会員とかは絵そのものとは何の関係もない。しかし制作に当って



甦える 130F 43回全道展

はそれが励みになり、自信になり履歴にも大きな足跡を残すことになるのである。

恵まれた才能とその努力も見逃せないが、繁雑多忙な教職にあり主婦でありながらこれだけの実績を挙げるには御主人の大きな理解と協力があつた故であらう。

絵の世界でこのような活躍を続けながら教室で、職員室で、家庭での彼女の存在は大きかった。教科の研究、特に理科、音楽の造詣が深く、推されて研究発表や研究授業も何度か行つた。ゆくゆくところにはその持てる情熱の全てを燃焼させ徹底せずには止まない人であつた。まさに痛恨のきわみである。この嘆きは本人だけのものではない。

作風は一貫して人間の生きる苦しさの追求であつたようである。ダイナミックな大きな構成の中で、強烈な色彩と激しく流動するフォルムから、生きることの苦悩と嗚咽の音が聞こえるのである。

特に行動展第三十八回展(昭和五十七年)あたりから「しじま」「地の祈り」「地の祈りA」「霧り」「霧り(7)」と続く一連の作品からは果敢に生きようとする人間へ寄せる思いと、相剋する運命への慟哭を聞く思いである。

今や幽明境を異にした。しかし残された作品はいつまでも生々と人間の生きざまを問いかけて続けることであらう。

44回展に求めるもの

絵画(札幌) 岸本 裕躬

全道展が好きなら、最初から全道展に応募してほしいものです。レベルの低い団体から段々入選率の高い団体展に応募してゆくのは一般社会の世渡りと同じ出世主義の小型化でしょう。堂々と憧れの会に出すのなら最初から挑戦していかなくてはいい作品は入選するために制作していいはずだと思います。

絵画(東京) 菅野 充造

一昨年、久しぶりに全道展の会場にありました。一般出品者および入選者もこれまでに多いという。その発展ぶりに私はさすが全道展だなあと感じました。きところによるとカルチュアセンターが原因しているとかの声がありましたけれど、いざれにしても文化活動が盛んになることは結構だと思えます。しかしながら全道展のレベルは量より質である理念だけは、忘れることはないでしょう。

絵画(札幌) 砂田 陽子
元氣・元氣・元氣・そして自由・

絵画(森町) 市川 洋一

庭の福寿草はもう咲こうとして黄葉を広げる気配だが、いまだ整備しないと走れない車の如く、全道展画集を開いたり閉じたりの日々、やはりタブロー制作は自分と対決する意味以外にないと思う。制作に向けて(物)え向ける視覚は、生きものたちの群像を動的に激しくエネルギーの映像を絵画化したい。

消して崩れて再現して類似作品はキラ

デス。やっぱり自分の絵を描いてゆくほかないのだから、生きものの感動は自分完成したい。

絵画(札幌) 高橋 靖子

陳列についての提案
これだけマンモス化した全道展の場合も、毎年陳列には大変な苦勞がある事と思います。出品者にとっては、我作品はどこに？ 並々ならぬ苦勞の末の作品で有れば愛着の念も又、ひとしおです。それで一つの提案ですが、今年あたり思いきって具象系と抽象系との作品を傾向別に並べて見るのも面白いと思います。かえって見易くすっきりするかも知れません。

第44回展画集掲載の広告を募集します

サイズと料金は下記の通りです。札幌に限ることなく巡回展開催地でもよろしくご協力ください。

①全ページ	220mm×210mm	¥30,000
②1/2ページ	220mm×100mm	¥20,000
③1/4ページ	105mm×100mm	¥12,000

○料金の請求先を原稿といっしょにお送り下さい。

6月1日(木)必着

○広告原稿の送り先 〒069 江別市大麻高町12-20
手島圭三郎・宛
TEL (011) 386-4165



43回全道展釧路展巡回展



東京地区のつどい

地区だより

地区だより

地区だより

地区だより

東京地区

桜の芽が大きくふくらんで

藤島 清士

先日スパイクタイヤの粉塵が舞い上がる札幌をテレビで見て、なにかとなつかりに想いました。

東京は近郊も含めて桜の芽が大きくふくらんでまもなく咲く事とおもいます。

早いもので44回展も近ずき会務のほうも多忙になり、各係の皆様本当に御苦労様です。

東京地区も私があとを受けてから、全道展の地域文化賞を国立劇場の受賞式に受けにいっただけで平穩です。

さて東京支部の会員の皆様はそれぞれ所属又グループ展など大変忙しがしく、又住居の(遠い)事もあり、会合の期日を設定するのがむずかしいです、が全道展の開催も近くになりましたので、五月中旬に会合をもつ予定です。

私は版画部ですから、あまり絵画部の方々と会う機会も少ないのですが、絵画部同志では他の個人展などで顔を合せる事が多いようです。なんにしてもこちらにきてから日も浅く判らないことが多いです。

地区だよりでなく、ただの近況になってしまいました、次回には地区報らしいものができるとは思いません。

(同封した写真は87忘年会の会合で、ラ

イオン五合半にて)

後左より浜西・菅野・小野・大谷・本郷・大高・藤島 前左より渡辺・小林・小川・小川洋・田中・北岡・岸の各氏

釧路地区

釧路からの通信

斉藤 一明

今年の釧路の冬は、暖冬小雪、異常気象とたたづけていいものか、本気で地球が心配になる。

昨年の全道展釧路巡回展は、釧路市公民館を会場に、八月二十五日から六日間の日程で催された。地元作品十七点を含め、計九十五点。例年好評の会期中の作品講評会は、札幌より彫刻の本田明二先生を迎えて行なわれ、例年になく盛会をきわめた。地元元に新しい風を吹き込むためにも、こうした催しは、これからも続けたいものと思う。

例年、手ぎまな会場だった市の公民館が、老朽化もあり、かねてから改築の話が出て

いたが、今年正式に、「社会教育センター(仮称)」としてその構想が市によって発表された。待望の市民ギャラリーの誕生となる。

平成四年完成予定。

建設予定地は公民館前の旧市立病院跡地で、地上九階、地下一階の円柱型ビル。移動美術館などの開催できる、市民ギャラリーをはじめ、彫塑、木工、工芸、陶芸、絵画など美術実習室も、もり込まれる。

これからの美術を含め、釧路の文化活動の拠点として期待されよう。

これとは別に、道東への道立美術館誘致は、これまで報道された様に、帯広に建設とその決着をみたが、誘致にこれまでつとめた我々にとっても、残念な出来事だった。今、それにかわるものとして、あらたに「美術館を含む道立文化施設」として、チルドレンズ美術館構想を打ち出し、「誘致する会」が、二月正式に発足した。

企画展

在礼会友作品展

会期 6月5日(月)～6月10日(土)
会場 大同ギャラリー

地区だより

地区だより

地区だより

地区だより

帯広地区

全道展・十勝地区の新年会より

岡沼 秀雄

はまなす国体スケート大会で賑しい平成元年一月二十八日夜。会場のホテルで早くから金庫を持って待つ幹事の池田緑さん。知性的、クールな絵と似合わぬお祭り好き



帯広・十勝地区の新年会

で純情派。それに古家智子さん、佐山由紀江さん。お二人は陶芸の新進で共に帯広百年記念館の窯で育った名コンビ。更に昨年は田中節子さんがその仲間に加わり揃って新しい陶芸を展開中である。やがて会場に岡沼淳一君登場。パーゲン物かも知れぬ皮ジャンが光る。あちこちの賞を手にしたのが運のツキで後刻皆にコーヒをねだられる。続いて斉藤隆博さん、「飲む会ならどこへでも」と出現。今まで長い間巡回展の金庫番を御苦労様でした。

十年前なら女性の影もない帯広地区も今は確実にウーマンパワー。そのお一人が佐藤綾子さん(絵画)。おっとりとした、じつくりと絵を仕上げる人ながら車のハンドルを握るとカレーサーだとか。アヤコさんの赤い車は交叉点を直角にまわる」と評判が高い。やや遅れて森弘志君が入って来たがアツという間もなく女性の横に座を占める。聞くまでもなく遅れの原因は明快で彼の愛車のせいである。安井賞展入選などで乗ってる筈だが車だけはアタリが悪い。なぜかアルコールを絶っているのが陶芸の岩間成志君で二次会の会場へ皆を運ぶ運転手役になってしまふ。人柄そのままのおおらかな作品で昨年は奨励賞を取るなど若手のホープ。かなり遅くなり金子章君が見える。地区の陶芸界のリーダーと呼ばれる人でありカラオケ界でも浅川茂君(絵画)と人気を分け合っている。その浅川君、今年は心に秘めた闘志を画面にぶつけている。欠席の森戸春樹君(彫刻)は四月からブカレストの日本人学校勤務。渡辺禎祥さん

函館地区

73名の大世帯

秋山沙走武

二月二十八日付で全道展事務局ZEN編集委員より『地区だより』執筆依頼の封書をうけとった。箱根氏と相談の上執筆することになった。

さて第四十三回全道展巡回展は例年通り丸井今井デパート七階で開催された。他にも巡回展会場では種々問題があると思うが、函館もその例にもれず本年度は若干床面積等も狭くなった様に思う。会場構成担当は木村訓丈氏であったが、その苦勞のあとがうかがえる。函館地区は会員、会友、一般出品者を加えると七十三名の大世帯で、入場者数は約二千五〇〇名ほどでこれも皆地区出品者の尽力もあらうし、マスコミ関係の協力もあつたことと思う。

昭和六十三年度総会は平成元年一月二十三日午後五時半より五稜郭タワービルで、会員、会友によって行われ、引続き一般出品者を加え盛大なものであった。事務局は現事務局が引続き担当することになり、事務局箱根寿保氏、会計宮西詔路氏(二年の任期満了であるが引続き担当)、監査長谷川

常雄氏、外山ムツ子氏である。ご苦労様です。最後になりましたが、会員の消息についてお知らせします。創立会員岩船先生が長いこと健康を害され静養されておられます。早く快復されることを祈って止みません。又三箇三郎氏が市文化賞受賞おめでとうございませう。

他は橋本三郎先生をはじめ極めて元氣の様です。会場の悩みの解消については地区委だけではなく、解決出来ない面があります。道新本社事業部を通じてなど、何らかの方策を講じなければ巡回展のための自己負担が多くなり巡回展の開催について難かしいことになるのではないかと懸念するのは私だけではなさそうです。何卒よろしくご高配のほどお願いします。



地区だより

地区だより

地区だより

地区だより

旭川地区

全道展旭川地区近況

神田 一明

昨年は旭川地区からの入選者は二十名でしたがそのうち三名が受賞、三名が新入選となかなか意気の揚った年でした。旭川では全道展の人気は相当なもので毎年巡回展が来るのを楽しみにしている人達が大勢居り、その数も年々増えて行く様です。

旭川での巡回展は昨年迄西武デパートで行われていたのを今年から市の文化会館で開くことにしました。デパートでは会場がせまく、作品全部を展示することが出来ず、会期中一部の作品の掛け変えが必要であったこと、特に彫刻鑑賞には空間が窮屈であったことなどが主な理由です。その点文化会館ではゆったりとした展示が出来ると思えます。

昨年の巡回展では一つ変わったことがありました。会場の一隅に会員、会友による小品展コーナーを設けたということです。若し売れたら巡回展の運営資金に当てようというのが目的でしたが果して売れるものかどうか、大変細かい気持でした。ところが初日オープンすると、あっという間に殆ど全部が売れてしまい、あとから来たお客さんからも不満の声があった程でした。しかし運営費の方はおかげでとても助りました。

又、会期中にはそれとは別に街の画廊で出品者全員による作品展(10号〜20号程度)が開かれ小さい乍ら意欲作ばかりで大変好評でした。

今年の正月には例年の如く出品者による新年宴会が開かれ、それぞれの制作上の抱負、絵画論などが盛んに飛び出し、活気あふれる愉快なパーティーでした。今年の旭川地区出品者達はいい作品を全道展に出品することでしょう。皆さん大いに期待してして下さい。

苦小牧地区

彫刻三体

遠藤ミマン

○本田明二作 道新苦小牧支社前

「母と子」ブロンズ

道新の支社が表町に新築された。

ホテルニュー王子の近くで、駅前からの目ぬき通りに面している。

作品は、明るくてユーモラス。

親しまれる街づくりの見本のようで、この企画は評判がよい。

昭和六十二年十月に完成した。

○山本一也作 市立文化公園内

「礎」彫刻セメント

苦工高校の跡地に建った。

苦工は大正12年3月5日から、昭和58年10月4日の移転まで60余年、この地にあった。

校庭にあったはんの木も残されていて市民には思い出深い。もちろん同窓生にはなつかしい風景だろう。

苦工高校同窓会による寄贈作品である。

○岡沼淳一作 早来町民公園内

「風」ブロンズとコンクリート

早来町開基百年記念の塔として選ばれた。昨年の全道展出品の「風」の木彫作品が、野外に合うように、高さ、材質が変えられて建つ。九月初めに完成の予定。

○巡回展は連年鶴川、ことしは早来町も開基百年の行事として開催。

鶴川会場には苦小牧地方の一般出品も参加するが、早来町には、町出身の佐藤公毅(彫刻)、峰律子、遠藤ミマンの他、家族縁で池本良三が参加する。

第44回展

「受賞者招待展」

会期 10月9日(月)〜10月14日(土)
会場 大同ギャラリー

右 本田明二作「母と子」

道新苦小牧支社前

左 山本一也作「礎」

苦小牧市立文化公園内



新しい企画で盛り上がった

'89全道展新年恒例会

● 89年1月14日(土)

● 札幌グランドホテル



▲うっとり聞きほれて

ク画材・松山額縁店等よりご寄贈をいただいている。

昭和天皇崩御の日、以前から予定していた新年恒例会の諸準備のため竹岡さんのアトリエに集まった。数日前から竹岡、青木両会員が集めた福引きの景品で足の踏み場もない程。例年道新・大丸藤井画材・オー

を代表して近美副館長近間さんからご挨拶。道新取締役編集局長作田さんの乾杯で開宴。今年の新年会は、二つの面で新しい工夫が見られた。一つは、プロのシャンソン歌手を招いたこと。例年の新年会とひと味違った雰囲気、特に、女性参会者を中心に大変好評だった。おひらきの時「とても楽しかった。」「最高よ。」等々多くの人達から聞かれた。もう一つは、福引き抽選会を受付けの時に済ませたので、宴の流れが内容的により充実させることができた。抽選会に使われていた時間で、各地から参会された方々は、一言ずつ地区宣伝やら自己PRが充分出来た。「遠くから来て、参加したという充実感を味わった。」という声もいくつか聞いた。

グランドホテルも二回目となった。「料理は、さすが。」「シャンソンと料理で、十分もとがとれた。」「やはり椅子席が疲れをとってくれる。」「素的な景品当っちゃった。」等々。全然知らない人達や、久方振りに会う懐かしい人達の顔が見えかくれて、新年会らしい雰囲気になり盛りに盛りに、時間と共に自由に立って話しははずんでいった。

— 企画部 —

44回展にむけて

人間模様

絵画(札幌) 大地 康雄

世紀末の混頓とした複雑多岐な世界をバックに「人間はいかに生きべきか」その生き様の一端を表現すべく「人間模様」をテーマに取り組んでいる。

人間と人間の間の中で失なわれつつあるヒューマニティ、ハイテクに支配されサイボーグ化されていく人間に感情移入は困難になろう、然し人間が人間であるメンタルな部分はいつの時代でも輝やいて、未来へのサバイバル人間でありたいと願いつつ。

入院

絵画(札幌) 渡部 重夫

この二月、思わぬアクシデントがあり肋骨骨折にて入院しました。昨年夏より想をおこして描いていた作品が無量にもくずれるのかと思うといらしたのが、今ようやく放免されて画布に向うと、ベットの上下で押さえられていた気持ちが一気に噴きあがって、收拾がつかず、何ができるか自分でも予想がつかません。ときに、春の空に浮かぶ雲を眺めています。

彫刻に魅せられて

絵画(室蘭) 工藤 善蔵

都美術館で友達と見たヘンリームアー展の彫刻に魅せられて、この頃野外彫刻にひかれるものがある。洞爺湖畔の安田侃「回生」奥尻島の流政之「神威流」他札幌芸術の森のビーゲラン「腰に手をあてて立つ男」どれをとっても空が作品であり彫刻そのものが生きものでもある様に呼吸している。どっしりとした量感と生命力がたまらなく好きだ。今まで絵具をふんだんに使って、筆勢に酔っていた自分の作品よりも、

賞

◎佐藤 靖

第28回日本現代工芸美術展会長賞受賞
展会長賞受賞

◎横田恵子

第28回日本現代工芸美術展現代工芸賞
受賞

◎藤井高志

安井賞展入選・蒼騎会展蒼騎会賞受賞

◎森谷 一

歌志内市第1回芸術賞受賞

●バルザンの様子を呈する公募展の中でいかにサバイバル人間になるかが問題である。この世紀末の不安と混沌の複雑多岐な時代に「どう生きるべきか」何を表現したいのか」を出品者は厳しくチェックする必要がある。そうすると自ら必然的に表現しなければならないことが爆発的に現われてくる。それを余すところなく全力投球で制作、集中し「オリジナルな作品」を一杯つくり上げて出品して欲しい。

絵画 (札幌) 大地 康雄

44回展へ求めるもの

ZEN・への意見要望

個展グループ展案内

- 在道作家独立展
4/17～22 時計台ギャラリー A・B・C室
- 亜葉の会
4/19～24 苫小牧市サンブラザ 6F
- 小樽市総合体育館ミニモメントのために 二部黎ロストワックスブロンズ彫刻展
4/27～5/7 小樽市花園1丁目 サロン・ド・宮井 11:00～8:00
- 羽山欣周油絵個展
5/1～6 時計台ギャラリーB室
- 第8回全道展帯広支部展
5/15～21 NHK帯広放送局ギャラリー
- 瀬戸節子木板画個展
5/15～20 時計台ギャラリーB室
- 銅版5人展
(艾沢祥子・岡本百合・杉浦あつ子・吉本まり子・田村裕子)
5/27～27 時計台ギャラリー
- 高橋靖子個展
6/5～10 時計台ギャラリーD室
- 第17回繙展(染色グループ)
6/6～11 三越・函館
- 渡会純作画画小品展
6/19～7/22 ギャラリー藍
- 菅野充造個展
6/19～24 時計台ギャラリー
- 大地康雄自選展
6/26～7/1を7/3～7/8に変更 時計台ギャラリー3F全
- 潮風会展
(大友一夫・藤毛正三・鈴木善公・沼田卓・能登正智)
7/6～9 苫小牧市サンブラザ
- 大友一夫油絵展
7/15～16 平取町中央公民館
- 夏山亜貴王個展
7/27～8/8 ぎやらいの彩
- 土屋千鶴子個展
8/31～9/5 アートギャラリーさいとう
- 川本ヤスヒロ個展
9/11～9/16 時計台ギャラリーA室
- 森谷一画展
9/18～23 時計台ギャラリーB室
- 佐藤フサ子と遠藤ミマンの同室個展・2人展
9/25～30 時計台ギャラリー
- 藤井正・高志父子展
9月中 アートギャラリーさいとう
- 菅野充造個展
10/2～7 東京「桜」ギャラリー
- 野本醇自選展
10/9～14 時計台ギャラリーA・B・C・E・F室
- 艾沢祥子個展
10/23～11/18 ギャラリー藍
- 岸本裕躬個展
11/20～25 時計台ギャラリー
- 八木伸子個展
11月中 東京銀座アネックス自動画廊
- 二部黎彫刻展
12/11～16 大同ギャラリー全室
- 道南作家油絵小品展 市川洋一
1990. 3/23～31 函館市五稜郭ニューギャラリー
- 谷口一芳個展
1990. 3/26～31 時計台ギャラリーA室

絵画 (札幌) 大地 康雄

画絵 (東京) 菅野 充造

●ZENの動きも定着しまとまった全道展出品者のコミュニケーションの場として評価される。今後、ニュースパリュのある情報を国内外を問わず、取り入れてもっとフレキシブルなものにしていったら楽しいのでは。

絵画 (札幌) 砂田 陽子

●年にして一、二回位と、何故か少ないように感じてます。予算があれば、もう少し増して欲しいと思いました。

絵画 (札幌) 夏山亜貴王

●先週「六人の侍」の「副展」を拝観しました。これはもつとも理想的な全道展の縮図でないかと思いましたが、サトルの云々、あきらかに「人間の独立したものから、人間(仲間の)連体関係を深めている」事。それでいて、先駆者のヘーゲルが訴えるような「人類は「我」の外に有り」という少しばかり、エーモラスな中で、個々人が、深く静かに自己の中に、潜行している姿に感動させられたのでした。以上

絵画 (苫小牧) 遠藤ミマン

●イメージの貧しい画家がいる。ある日、素っ裸の天使が飛んできた。抽

第44回展

表彰式懇親パーティー

日時 7月8日(土)午後
会場 札幌三越F106大食堂
会費 四千五百円

住所・電話の変更

●アトリエ移転の御案内
艾沢祥子 札幌市中央区北四条西二十七丁目成沢アパート
☎〇一六六三一・二八三
(住居の変動はありません)

●新住所

渡部重夫

八木知子

〒〇〇四 札幌市白石区もみじ台東六丁目二一四
☎八九七・一八三〇

札幌市北区麻生町一丁目六一二
十五富士ハイム六号室
☎七四六・七二四三

全道展に関するお問い合わせは次の所へ

●全道展事務局

〒〇〇五 札幌市南区川沿一条六丁目六一四 伏木田光夫方

☎〇一五七二・二六〇

●北海道新聞社事務局

文化事業部・全道展担当

〒〇六〇九一 札幌市中央区大通西三丁目
☎〇一三二二・二二二